

## 米国出張報告

要田大地

2024年5月にアメリカのウィスコンシン州マディソンにて開催されたVAS社のDairyComp305に関する2週間の講習に参加しました。以下に簡単にご報告いたします。

### 出張先

VAS社 (Madison URUS Office)

### 参加者

私

ドイツのVAS支社からの新人のサポート担当者

サマーインターンの学生 (1名)

### 講習内容

1. DairyCompの基礎から応用までの座学  
DairyCompの基本操作と導入方法についての講義と実習  
基本的なデータ入力、レポート作成、基本的な分析手法を習得  
PlatformやPocket Cow Cardとの連携や農場のペーパーレス化について  
オブシンプログラムや治療プロトコルの設定など、中～上級の内容  
パーラーシステムとのデータ授受について  
活動量計データのDairyCompへの情報の自動取り込みについて
2. 農場視察  
2～3000頭規模のパーラー搾乳農場でPocket Cow Cardを活用したVet check (繁殖検診)の現場を見学

アメリカの農場ではDairyCompに農場で起きた出来事ほぼすべてが記録されており、その日の作業内容がシンプルに管理されている印象を受けました。特に、Pocket Cow Cardによる作業の効率化はとても素晴らしく、その日にワクチンを打つ牛や検診の対象牛などをエラーなく迅速に特定できていました。

EU加盟国では、農場で使用した抗生物質などの薬剤をすべて厳密に記録する必要があるとのことで (場合によっては当局への提出を求められることも)、DairyCompに紐

づけられている CowCare という機能でそれらを管理できるため、DairyComp を利用する農場が多いとのことでした。

全体を通して VAS 社のサポート担当職員は農場への理解が深く、農場に寄り添った対応をしていると感じました。

## 講習の成果

DairyComp の全機能を網羅した講習を受け、DairyComp でできることの範囲の広さを認識しました。VAS 社の担当者と直接コミュニケーションを取ることで技術的な疑問点を解消し、実践的なアドバイスを受けることができました。また、他の参加者と交流し、異なる視点からの意見や経験を共有することができました。特にドイツなどアメリカ以外の DairyComp の状況を知ることができ、大変貴重な機会でした。

## 今後の展望

学んだ内容をもとに、社内外での説明会を実施し、DairyComp の活用を促進したいと思うようになりました。

日本国内のユーザーがほとんど使用していないオブシークの設定やプロトコルの設定について、日本国内でどのように使用するのが良いかを検討し、使用方法を水平展開したいと考えています。

最終的には、日本の乳検等のデータを自動的に DairyComp に取り込めるような働きかけなどをしたいと思います。今後も継続的に VAS 社と連携し、新しい情報や技術の導入を積極的に行います。



URUS office  
URUS 傘下の Ag Source 社と VAS 社の合同事務所が入っている



Pocket Cow Card

RFID リーダーで耳の EID を読み取っているところ。  
妊鑑対象牛なら「Preg check」とスマホから音声が出る。

結果の入力も現その場で完了する。